

区分	基礎分野
授業科目	論理的表現
回数(単位)	15回(テスト含む) (1単位30時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	1.「書く能力」。論理的に明晰な文章を作成する為に、文章の基礎知識及び論証の方法を学ぶ。また、自分の意見を明確に伝え、相手の意思を的確に理解する為に必要な表現力を身につける。 2.「話す力」。論拠を整理し、相手にわかりやすいよう筋道を立てて意見を述べる力を養う。さらに、相手の論旨を的確に理解した上で自らの考えを深め、議論を活発に行うことを目指す。また、敬語の役割を考え、状況に応じて適切に使えるようにする。
関連科目	
学習内容	<p>【技能編】</p> <p>1. 敬語(基礎) 2. 敬語(発展) 3. 話し言葉と書き言葉 4. 文の組み立て 5. 視点 6. 文のつなぎ方 7. 意味の限定 8. 言葉の順序 9. 定義・分類の表現 10. 比較・対照の表現 11. 列挙・順序・因果の関係 12. プレーンストーミング 13. 引用の表現・レポートの書き方 14. 小論文(意見文)</p> <p>【知識編】</p> <p>問題な日本語 難読語 言葉の呼称 同音・同訓意義語の使分1 同音・同訓意義語の使分2 同音・同訓意義語の使分3 類義語の使い方 対義語の使い方 言葉の呼応 定型表現・慣用句 四字熟語、仮名遣い・送り仮名の使い方</p>
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	試験(80点) + 平常点(漢字20点)
教科書	書き込み式 日本語表現ノート 三弥井書店
参考文献	適宜プリントで配布します。
講師のコメント	相手が何を根拠に考え、伝えているのか。自分がどのように感じ、表現するのか。他者との交流の上で重要な力を身につけていきましょう。

区分	基礎分野
授業科目	看護に生かす情報学
回数(単位)	7.5回(1単位15時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	<p>①情報とは何かを知り、看護が取り扱う情報の特徴について理解することができる</p> <p>②情報を共有するためのコミュニケーションとしての1つであるICTの仕組みを理解することができる</p> <p>③安全に活用するための情報倫理を理解することができる</p>
関連科目	公衆衛生学・看護に活かす統計学・看護と倫理・関係法規・看護研究
学習内容	<p>1)情報/情報社会とは</p> <p>2)情報社会における倫理 I</p> <p>3)情報社会における倫理 II</p> <p>4)医療・看護における情報</p> <p>5)情報を扱うコミュニケーション</p> <p>6)ICTとは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ITからICTへ: 人を繋げるインターネットとその仕組み ・SNSの普及: マスメディアとソーシャルメディア <p>7)電子メールを考える</p> <p>8)情報セキュリティ</p>
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(100点満点)
教科書	
参考文献	看護情報学(医学書院) エッセンシャル看護情報学(医歯薬出版株式会社)
講師のコメント	デジタル技術により、さまざまな知識や情報が共有され、新たな価値が創造される社会となりました。医療においてもICTが導入される時代へと進んでいきます。看護学生が、看護実践能力と共に安全な情報活用能力を身につけられるよう、基本的な知識と活用方法を学びましょう。

区分	基礎分野
授業科目	看護に生かす物理学
回数(単位)	15回(テスト含む) (1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	物の動きの原理を理解し、看護師として、人体に関連した物理現象や器具に関する動きの基本を把握できることを目的とする。
関連科目	基礎看護技術1. 4. 5. 8. 9
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 算数・数学 2. 移動動作に必要な力の加減 3. 単位系と力の単位、力のモーメント 4. 安定・不安定 5. 作用・反作用の法則、摩擦 6. 比重・浮力、圧力の基本知識 7. 空気の圧力、酸素ボンベ、輸液 8. 吸引(ドレナージ) 9. 熱 10. 波、音、耳の構造 11. 光、物の見えるしきみ、パルスオキシメーター 12. 看護における電気 13. 放射線の基礎知識と医療利用 (被ばく防止策)
授業時間外学習 (事前・事後)	医療や看護に関連する物理学の知識です。丸暗記するのではなくて、理解するように努めてください。原理や原則を理解できれば応用も可能となります。学生同士で教え合うことを奨励します(マスクの着用など感染対策も忘れないでください)。
評価方法	筆記試験 (100点)
教科書	ベッドサイドを科学する -看護に活かす物理学- (学研) * 試験時は電卓の使用を認めません
参考文献	看護に必要なやりなおし数学・物理 (照林社 時政孝行著)
講師のコメント	「物理学」と聞くとアレルギー反応を起こす方もいると思います。医療や看護の裏に科学的な背景があることを知り、興味を持てるような授業ができればと思います。なるべく他の科目との関連を示し、国家試験の学習にも役立つようにしたいと考えています。

区分	基礎分野
授業科目	社会学
回数(単位)	15回(テスト含む) (1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	社会は人ととの関係のなかにあります。そして、この「社会」について考えるのが社会学という学問です。この授業ではさまざまな社会学のテーマを横断的に概観していきます。それを通して、社会学の発想を理解すること、社会学の文献を読んだときに理解できるようになることを目指します
関連科目	
学習内容	(1) イントロダクション①: 社会学と「社会学的想像力」 (2) イントロダクション②: 身近なテーマで社会学する (3) 子どもの社会学 (4) ジェンダーの社会学 (5) アニメ・マンガの社会学 (6) メディアの社会学 (7) 社会問題の社会学 (8) 学校教育の社会学 (9) 働くことの社会学 (10) 医療の社会学①: 病の語り (11) 医療の社会学②: 病人と医師 (12) 医療の社会学③: 家族の役割と介護 (13) 医療の社会学④: 教育の医療化 (14) 医療の社会学⑤: 技術と医療の発展 (15) 試験とまとめ: 社会学の文献を読む
授業時間外学習 (事前・事後)	事前学習: 事前に課題がある場合には、その課題を完成させてくる。 事後学習: 授業で習ったことを復習し、身近な出来事と結び付けて理解を深める。
評価方法	筆記試験(70点) + 提出物(30点) = 計100点満点
教科書	なし
参考文献	授業時にその回ごとの参考文献を提示します。
講師のコメント	毎回授業開始時に配布するプリントを用いて授業を進めていきます。授業では社会学の考え方を理解するためのワークやディスカッションを行います。なお、受講者の関心に応じて学習内容は変更する場合があります。

区分	基礎分野
授業科目	英語 1
回数(単位)	15回 (テスト含む) (1単位 30時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	<p>①医療・看護に関する英語語彙を習得する。</p> <p>②医療現場で使われる会話文を理解できるようにする。</p> <p>③医療・看護に関する英文を理解できるようにする。</p>
関連科目	
学習内容	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 Chapter 1, 臨床英会話(DVD) 1</p> <p>第3回 Chapter 1, 臨床英会話(DVD) 2</p> <p>第4回 Chapter 2, 臨床英会話(DVD) 3</p> <p>第5回 Chapter 2, 臨床英会話(DVD) 4</p> <p>第6回 Chapter 3, 臨床英会話(DVD) 5</p> <p>第7回 Chapter 3, 臨床英会話(DVD) 6</p> <p>第8回 中間試験</p> <p>第9回 Chapter 4, 臨床英会話(DVD) 7</p> <p>第10回 Chapter 4, 臨床英会話(DVD) 8</p> <p>第11回 Chapter 5, 臨床英会話(DVD) 9</p> <p>第12回 Chapter 5, 臨床英会話(DVD) 10</p> <p>第13回 Chapter 6, 臨床英会話(DVD) 11</p> <p>第14回 Chapter 6, 臨床英会話(DVD) 12</p> <p>第15回 期末試験</p> <p>* ただし、受講生の習熟度によって授業計画を変更する場合がある</p>
授業時間外学習 (事前・事後)	予習:教科書の指定箇所
評価方法	授業参加態度 30% 試験 (中間・期末) 70% = 計100点満点
教科書	『医療・看護のためのやさしい総合英語』 金星堂
参考文献	
講師のコメント	この授業は看護・医療英語の教科書、教科書解説用のプリントおよび臨床英会話のDVDを使用して進めます。看護・医療に関する語彙・表現の習得を第一の目標とし、分からぬ單語や表現は個々に調べてもらうので、毎回必ず（冊子体あるいは電子）辞書を持参してください。予習の仕方や授業の進め方については初回ガイダンスで説明します。

区分	基礎分野
授業科目	英語 2
回数(単位)	7.5回(テスト含む) (1単位15時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	<p>①医療・看護に関する英語語彙を習得する。 ②医療現場で使われる会話文を理解できるようにする。 ③医療・看護に関する英文を理解できるようにする。</p>
関連科目	英語 1
学習内容	<p>第1回 Chapter 8 , 臨床英会話(DVD)13 第2回 Chapter 8,9 臨床英会話(DVD)14 第3回 Chapter 9, 臨床英会話(DVD) 15 第4回 Chapter 10 臨床英会話(DVD)16 第5回 Chapter 10,11 臨床英会話(DVD) 17 第6回 Chapter 11,12 臨床英会話(DVD) 18 第7回 Chapter 12 第8回 期末試験 (50分)</p> <p>* ただし、受講生の習熟度によって授業計画を変更する場合がある</p>
授業時間外学習 (事前・事後)	予習:教科書の指定箇所
評価方法	授業参加態度 30% 試験（中間・期末）70% = 計100点満点
教科書	『医療・看護のためのやさしい総合英語』（改訂版）ISBN: 978-4-7647-4153-9
参考文献	
講師のコメント	この授業は「英語1」と同様、看護・医療英語の教科書、教科書解説用のプリントおよび臨床英会話のDVDを使用して進めます。看護・医療に関する語彙・表現の習得を第一の目標とし、分からぬ単語や表現は個々に調べてもらうので、毎回必ず（冊子体あるいは電子）辞書を持参してください。

区分	基礎分野
授業科目	教育学
回数(単位)	15回(テスト含む) (1単位30時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	<p>1. これまで受けてきた学校教育での体験を客観的に見つめ直す態度を養う。</p> <p>2. 教育の形式や内容が歴史的に変化してきた様子を理解する。</p> <p>3. 今日の教育をめぐる具体的な問題状況を考察し、自分なりの意見を形成する。</p> <p>4. 教育をめぐる現代的課題を「看護」ないし「ケア」の観点からとらえ直す。</p>
関連科目	
学習内容	<p>①はじめに:教育の問われ方を問い合わせ直す</p> <p>②人間の特殊性と文化の伝達</p> <p>③教育の必要性と可能性</p> <p>④学ぶことと教えること</p> <p>⑤「教える=学ぶ」関係の歴史的変化</p> <p>⑥DVD「院内学級」:教育とケア</p> <p>⑦生活形式の人間形成と学校形式の教育</p> <p>⑧日本の学校教育:戦後①DVD「未来への選択 教育」前半</p> <p>⑨日本の学校教育:戦後②DVD「未来への選択 教育」後半</p> <p>⑩戦後日本の義務教育制度</p> <p>⑪「教育家族」の一般化と学校教育への期待</p> <p>⑫現代の教育病理現象:「問題行動・不登校調査」をもとに</p> <p>⑬DVD「人の中で 人は育つ」:教育と子ども理解</p> <p>⑭まとめ:教育の現代的課題</p> <p>⑮試験</p>
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	授業中の小レポート 筆記試験 (100点満点)
教科書	『やさしい教育原理(第3版)』(有斐閣アルマ)有斐閣
参考文献	
講師のコメント	「人間は教育によってのみ眞の人間になる」といわれるが、人間が人間らしく生きるために、教育が不可欠である。この授業では、「教育(=文化の伝達)とは何か?」を中心テーマとしながら、人間形成の歴史的变化と今日的な課題について理解することを目標とする

区分	基礎分野
授業科目	心理学
回数(単位)	15回(テスト含む) (1単位30時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	この授業では、意識のない心の動き(無意識)について、心理学における様々なアプローチから理解を深めていきます。自分自身や、対人関係のなかでどのような心の動きが起こっているのか、心理学的な言葉を用いて説明できるようになることが目標です。また、心の危機や精神疾患に関する知識を持ち、その対処について理解できるようになることも目標です。
関連科目	
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 発達心理学(1): 乳児期から幼児期 3. 発達心理学(2): 児童期から青年期 4. 発達心理学(3): 成人期から老年期 5. 生理心理学・神経心理学: 脳と心のつながり、脳損傷の心への影響 6. 学習心理学・知覚心理学: 行動の習得・変化、感覚と意識のつながり 7. 認知心理学: 対象の認識・記憶・処理のメカニズム 8. 社会心理学(1): 自分と他者との心の相互作用 9. 社会心理学(2): 規模の大きい集団における社会行動 10. 産業・組織心理学: 働くことにつながる心理 11. パーソナリティ心理学: 性格の測り方、分類、形成や発達 12. 臨床心理学(1): 臨床心理士・公認心理師の働く分野、心理検査 13. 臨床心理学(2): 心理療法の理論 14. 臨床心理学(3): 心理療法の実際 15. テスト
授業時間外学習 (事前・事後)	要復習
評価方法	小テスト計3回(30%)と期末テスト(70%)
教科書	講師作成のレジュメ
参考文献	ステップアップ心理学シリーズ 心理学入門 こころを科学する10のアプローチ(板口典弘・相馬花恵 著、2017年、講談社) ヒルガードの心理学 第16版 (内田一成 訳、2015年、金剛出版)
講師のコメント	「どうしてあの人はあのような言動をとるのだろう」、「どうして思ったように行動できないんだろう」などと考えたことはありませんか? 心理学は、今後の看護の仕事だけでなく、日常での対人関係を円滑にしたり、自己理解を深めていく時にも、役立つ知見がたくさんあります。ぜひ興味を持って取り組んでもらいたいと思います。

区分	基礎分野
授業科目	倫理学
回数(単位)	15回(テスト含む) (1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	さまざまな倫理的問題の所在とその解決に取り組む倫理学説を学ぶことを通じて、物事を考えるときに役立つ筋道の立て方を確かめるとともに、自分なりの価値観を探求するための手がかりを得る。
関連科目	心理学 社会学
学習内容	01:倫理学とは? 02:倫理学の歴史:徳倫理学＆メタ倫理学 03:社会契約説(古典)①:自然状態とは何か? 04:社会契約説(古典)②:主権は何の役に立つのか? 05:社会契約説(古典)③:法は何の役に立つのか? 06:人間と計算機械 07:功利主義①:最大多数の最大幸福とは何か? 08:功利主義②:嘘を吐いてもよいのか? 09:義務論①:自律とは? 10:義務論②:嘘を吐いてもよいのか? 11:社会契約説(現代):ジョン・ロールズの正義論 12:社会正義①:倫理と利害関係者 13:社会正義②:仕組みとしての倫理 14:生命倫理 15:まとめ
授業時間外学習(事前・事後)	
評価方法	レポート(60点) 小テスト2回(40点)
教科書	『入門・倫理学』 赤林朗・児玉聰(編) 効果書房
参考文献	『マンガで学ぶ生命倫理』 児玉聰・なつたか 化学同人 その他、授業中に紹介する。
講師のコメント	倫理的に正しいことが社会のなかで安定して行われるためには、それが人それぞれの心がけに任せられるというのではなく、倫理の担い手たちがそれぞれの利害や立場を大切にしながらも、その違いに応じて無理なく役割分担できる仕組みとして組み立てられる必要があります。そのことについて学んでいきます。

区分	基礎分野
授業科目	保健体育
回数(単位)	15回(テスト含む) (1単位30時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	<p>1. 各競技を通してチームワークを育てる</p> <p>2. チームスポーツを通して、個々の技能の上達とチームでの役割を自覚し、責任をもって参加協力する姿勢を養う</p> <p>3. 審判等の経験により、知識を深めると同時に公正な判断、試合の運営を身につける</p> <p>4. 実技を通して、安全に配慮し、お互いの礼節を学ぶ</p>
関連科目	
学習内容	<p>1. 競技の実技を通して、それぞれのルールを理解し、チームプレーを行う</p> <p>1)ソフトバレー・ボール</p> <p>2)バトミントン</p> <p>3)インディアカ</p> <p>4)ドッジボール</p>
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	実技試験 (100点満点)
教科書	
参考文献	
講師のコメント	実技の授業を通して礼節、公正さ、思いやり、協調性を学ぶと同時に自ら考え、自ら判断・行動できる能力を育てたいと考えています。

区分	基礎分野
授業科目	音楽
回数(単位)	15回(テスト含む) (1単位30時間)
開講年次	1年次後期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 集団における協調性を身につける 2. 自らの目標に向かって努力する姿勢を育てる 3. 音楽により情緒的な感性を高める
関連科目	
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ギター・マンドリンなどの楽器演奏の方法を学び合奏する <ol style="list-style-type: none"> 1) 校歌 2) 蛍の光または学生の希望曲 3) 仰げば尊し 2. 校歌の合唱
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	実技100点満点
教科書	なし
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門分野
授業科目	基礎看護学概論
回数(単位)	15回(テスト1回を含む) (1単位30時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の歴史・定義・法律・看護理論を知る 2. 看護の対象の捉え方がわかる 3. 健康とは何かを考える 4. 看護の目的・機能・役割の実際を知る 5. 自己の看護観を述べることができる
関連科目	各看護学概論
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護とは(看護の定義 法律 歴史) 2. 看護の対象(対象の理解と健康の捉え方) 3. 看護の機能と役割(看護におけるチームアプローチと看護の継続性についても) 4. 看護実践の場(病院の機能と役割) 5. ナイチンゲール「看護覚え書」を読む(看護のあり方、看護師について考える) (演習:ジグゾー法によるグループワーク) 6. 看護について~理論家の考える看護とは~(演習:ジグゾー法によるグループワーク) <ヘンダーソン・ペプロウ・ロイ・オレム・ワトソン>
授業時間外学習 (事前・事後)	「看護覚え書」をグループで抄読会をするため、該当の章を事前に読んで参加してもらいます。 最終レポートでは、「看護の基本となるもの」についても読み、これからどのような看護をしていきたいのかを考えてもらいます
評価方法	筆記試験/課題提出 (100点)
教科書	看護学概論 基礎看護学①(メディカ出版) 看護覚え書(現代社)
参考文献	看護の基本となるもの(日本看護協会) ワークブックで学ぶナイチンゲール「看護覚え書」(メディカルフレンド社) 看護職の基本的責務(日本看護協会出版会)
講師のコメント	いろいろな人の意見をよく聞き、意見交換することで、自分の思考を深め、看護とは何かを考えてほしい。また、看護をする為に自分はどうすればよいのかイメージし、看護を追究できる人になってほしい。

区分	専門分野
授業科目	基礎看護技術1
回数(単位)	4回 (3講師でテスト1回を含む) 3講師で 1単位30時間
開講年次	1年次 前期
学習目標	<p>1.看護における観察・記録・報告の意義と目的が理解できる 2..観察するための方法について理解できる 3.看護記録の種類と内容、および記録の原則について理解できる 4.看護における報告の内容と方法について理解できる 5.医療における安全・安楽の意義を解釈し、今後の看護につながる考え方を持つことができる</p>
関連科目	基礎看護学概論 医療安全
学習内容	<p>看護技術とは 看護技術の基本原則(安全・安楽・自立・個別性)と優先順位</p> <p>情報を伝える技術</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 情報と観察 <ul style="list-style-type: none"> ・観察の目的 ・情報収集・観察の方法・手段 ・情報の種類(S,O情報)と情報源 2. 記録と報告 <ul style="list-style-type: none"> ・記録の目的と意義 ・記載時の留意点と記録の取り扱い ・相手に伝わる報告の仕方—報告の条件 <p>安心した療養を支える技術</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 安全な療養生活のために <ul style="list-style-type: none"> ・安全の意義と目的 ・患者の安全を阻害する危険因子 ・安全を守る援助—抑制(適応と3つの要件) 2. 安楽ってどんなこと? <ul style="list-style-type: none"> ・安楽の重要性 ・安楽を阻害する因子 ・安楽への援助(身体的・精神的・社会的安楽)
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(30点満点)
教科書	基礎看護学② 基礎看護技術 I (メディカルフレンド社)
参考文献	看護がみえるVol.1 基礎看護技術(MEDIC MEDIA)
講師のコメント	看護技術は保健・医療・福祉の場において看護師が行う看護行為です。 看護独自の専門技術である看護技術の大前提となる原則について学び、今後の学びの基本としていきましょう。

区分	専門分野
授業科目	基礎看護技術1
回数(単位)	4回 +3講師でテスト1回 3講師で 1単位30時間
開講年次	1年次 前期
学習目標	1.看護職として必要なコミュニケーションの知識・技術が習得できる
関連科目	基礎看護学概論 心理学 人間関係論 フィジカルアセスメント
学習内容	人間関係を成立・発展させるコミュニケーション技術 1. 医療(看護)におけるコミュニケーション ・コミュニケーションとはなにか(構成要素、特徴) ・コミュニケーションの種類(言語的・非言語的)(演習) ・医療におけるコミュニケーションの特徴 ~良好なコミュニケーションのためのスキル~(演習) 2. 自分の傾向を知ろう ・自己理解・他者理解 (演習) ・アサーティブコミュニケーション(演習)
授業時間外学習(事前・事後)	パーソナルスペースや立ち位置について事前学習
評価方法	筆記試験(30点満点)
教科書	基礎看護学② 基礎看護技術 I (メディカルフレンド社)
参考文献	看護がみえるVol.1 基礎看護技術(MEDIC MEDIA)
講師のコメント	コミュニケーションの授業では自分の傾向なども踏まえながら演習を取り入れて学んでいきます。これまでのコミュニケーションスキルを活かし、さらに医療現場でのコミュニケーションの特徴や患者の思いに寄り添った関わりができるよう、基礎的知識を学んでいきましょう。

区分	専門分野
授業科目	基礎看護技術1
回数(単位)	7回+3講師でテスト1回 (3講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	<p>「生きている」(意識・体温・呼吸・脈拍・血圧)を観察する技術をみにつけることができる</p> <ol style="list-style-type: none"> 意識・体温・呼吸・脈拍(心拍)・血圧の変動や調節のメカニズムが説明できる 意識レベルの評価方法が説明できる 瞳孔・対光反射の観察方法が説明できる バイタルサイン(体温・呼吸・脈拍(心拍)・血圧)測定における留意点が説明できる 安全・安楽に配慮しながら、バイタルサインを正確に測定することができる
関連科目	看護形態機能学1・2・3 看護に生かす物理学 基礎看護学概論 フィジカルアセスメント 基礎看護学実習1-②
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 「生きている」を観察する技術(バイタルサイン測定)の意義 バイタルサイン測定の方法 <ol style="list-style-type: none"> 意識(瞳孔・対光反射) 体温 呼吸 脈拍・心拍 血圧 バイタルサイン測定の実際(演習) <ol style="list-style-type: none"> 瞳孔、対光反射の観察 体温、呼吸、脈拍、心拍、血圧の測定 バイタルサイン測定の一連 バイタルサイン測定における、安全・安楽への配慮 身体計測
授業時間外学習 (事前・事後)	事前:意識、体温、呼吸、脈拍・心拍、血圧に関する形態機能の復習 校内実習前:校内実習内容の予習 校内実習後:技術内容の反復練習
評価方法	筆記試験(40点)
教科書	基礎看護学② 基礎看護技術 I (メディカルフレント社)
参考文献	人体の構造と機能① 解剖生理学 (医学書院) 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 看護がみえるVol.1 基礎看護技術(MEDIC MEDIA)
講師のコメント	<ul style="list-style-type: none"> バイタルサイン測定は、患者の全身状態を知るためのベースとなる重要な技術です。確実な技術習得を目指して技術練習に励んでください。 バイタルサイン測定一連の演習と技術試験は基礎看護技術8の時間枠であります。

区分	専門分野
授業科目	基礎看護技術2
回数(単位)	7回+2講師でテスト1回 (2講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 前期～後期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食生活・排泄への興味・関心が高まる 2. 食生活・排泄の意義が理解できる 3. 栄養のアセスメント方法が理解できる 4. 対象に応じた食生活への援助や食事介助の方法が理解できる 5. 食事介助の基本的な援助方法を習得できる 6. 食事介助を受ける対象の気持ちを知ることができる
関連科目	看護形態機能学4、生化学、栄養学
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.「食べる」を支援する技術① <ol style="list-style-type: none"> 1)食生活・栄養の意義 2)食生活・栄養に関する看護の役割 3)食生活・栄養のアセスメント <ol style="list-style-type: none"> (1)栄養状態 (2)水分バランス (3)食事内容と食習慣 (4)食事動作 4)食事援助の実際 (校内実習) <ol style="list-style-type: none"> (1)咀嚼・嚥下障害とケア (2)食欲不振とケア (3)食行動制限とケア 5)非経口栄養法 6)口腔ケア (校内実習)
授業時間外学習 (事前・事後)	事前:食事に関する看護形態機能学の復習 校内実習前・後:症例検討のレポート
評価方法	筆記試験+課題(50点満点)
教科書	基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ(メディカルフレンド社)
参考文献	看護がみえるVol.1 基礎看護技術(MEDIC MEDIA)
講師のコメント	校内実習では、事例患者の食事内容を考え実際に作ったメニューを用いて食事援助の実際や口腔ケアを学びます。 技術だけでなく、食事援助を受ける対象の気持ちも一緒に考えながら楽しく学習していきましょう。

区分	専門分野
授業科目	基礎看護技術2
回数(単位)	8回 (2講師でテスト1回含む) 2講師で1単位30時間
開講年次	1年次 後期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 排泄のアセスメント方法が理解できる 対象に応じた排泄の援助方法が理解できる 原理・原則に沿って浣腸・導尿を実施することができる 排泄介助を受ける対象の気持ちを知ることができる
関連科目	看護形態機能学4、生化学、栄養学
学習内容	<p>「トイレに行く」を支援する援助</p> <ol style="list-style-type: none"> 排泄の意義、排泄のアセスメント 排便障害と援助 <ol style="list-style-type: none"> 便秘 下痢 便失禁 排尿障害と援助 <ol style="list-style-type: none"> 頻尿・尿失禁 排尿困難・尿閉 患者への排泄援助(便器・尿器、オムツ、ポータブルトイレ)(校内実習) 排泄に関する処置(浣腸、導尿)(校内実習)
授業時間外学習 (事前・事後)	事前:排尿・排便に関する看護形態機能学の復習 校内実習前:校内実習内容の予習 校内実習後:技術内容の反復練習
評価方法	筆記試験(50点)
教科書	基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ(メディカルフレンド社)
参考文献	看護がみえるvol.1基礎看護技術(MEDIC MEDIA) 看護がみえるvol.2臨床看護技術(MEDIC MEDIA)
講師のコメント	排泄に障害のある患者への看護を学びます。講義前に、自分の排泄について(排泄物の色・形・量、回数、どんなものを食べてどんな排泄物が出たか、生活習慣、など)傾向を探ってきてください。きっと看護に生かせるヒントがあると思います。

区分	専門分野
授業科目	基礎看護技術3
回数(単位)	10回(2講師でテスト1回を含む) 2講師で1単位30時間
開講年次	1年次 後期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 身体各部や衣類の清潔が生体や精神に及ぼす影響が理解できる 清潔援助時の看護師の役割が理解できる 対象に合わせた清潔に関する基本的援助について理解できる
関連科目	形態機能学4(お風呂に入る)、形態機能学1、基礎看護技術3(環境) 基礎看護技術4(活動)
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 「身体をきれいにする」を支援する技術 <ol style="list-style-type: none"> 清潔にすることの意味 清潔の援助 <ol style="list-style-type: none"> 頭皮・頭髪の清潔方法(演習:洗髪の基本動作) 洗髪による生理的影響 身体をきれいにする方法 入浴による身体への影響と効果 手浴・足浴の方法(演習:手浴・足浴) 整容(演習:爪切り) 粘膜のケア(演習:陰部洗浄) 清潔援助に関する基本動作(事例検討) タクティールケア 「身だしなみを整える」を支援する技術 <ol style="list-style-type: none"> 衣生活 <ol style="list-style-type: none"> 衣服を着る目的 療養に適した衣服 衣生活を調整する能力のアセスメント(事例検討) 和式寝衣の寝衣交換(点滴中)の方法と留意点(演習:寝衣交換)
授業時間外学習 (事前)	事前:形態機能学の復習、援助に対する手順書の作成
評価方法	筆記試験+課題(技術手順書作成等)(70点満点)
教科書	基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ(メディカルフレンド社)
参考文献	看護がみえるVol.1 基礎看護技術(MEDIC MEDIA)
講師のコメント	<p>事例検討やグループワーク、演習での体験を通して学んでいきます。 普段行っている清潔行動を改めて看護の視点で考えてみましょう。 基本的な技術を学ぶだけでなく、体験や学習を通して、「気持ちよさ・心地よさ」を提供できるのかについても考えながら一緒に学んでいきましょう。 講義で学習した後に、演習を行いますので、技術の習得へ向けて取り組んでいきましょう。</p>

区分	専門分野
授業科目	基礎看護技術3
回数(単位)	5回 + 2講師でテスト1回 (2講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康生活の維持や回復のために、生活環境の果たす役割について理解できる 2. 生活環境の重要性について理解し、適切な援助を習得できる 3. 安全安楽なベッドの作成方法を習得できる
関連科目	看護に生かす物理学・看護形態機能学3・基礎看護学概論
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 安全で快適な環境を作る技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 環境とは 2) 環境に影響を及ぼす因子 3) 病棟・病室の環境 4) 環境を整える視点と調整方法(8つの視点) 5) 病室の環境整備(校内実習) 6) ベッドメイキング(校内実習)
授業時間外学習 (事前・事後)	講義前・後:看護覚え書の該当内容を読む 校内実習前:校内実習内容の予習 校内実習後:技術内容の反復練習
評価方法	筆記試験(30点満点)
教科書	基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ(メディカルフレンド社)
参考文献	看護がみえるvol.1基礎看護技術(MEDIC MEDIA) 看護覚え書(現代社) ワークブックで学ぶナイチンゲール『看護覚え書』(メディカルフレンド社)
講師のコメント	グループワークや校内実習を通して学んでいきます。人間と環境は互いに影響をし合います。病人が快適な日常生活を過ごすことができるよう、病床の環境を整える方法を一緒に学んでいきましょう。※臥床患者のリネン交換技術試験あり(基礎看護技術8の時間枠)

区分	専門分野
授業科目	基礎看護技術4
回数(単位)	15回 (テスト含む) (1単位30時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 運動と休息の意義および重要性について理解する 廃用症候群のリスクアセスメントをし、予防の援助を理解する 運動機能の維持・回復のための援助を理解する 体位変換、移乗・移動時における基本的な援助方法を理解し、技術を習得する 安楽保持の援助を理解する 休息と睡眠が人間の生命に与える影響を理解する 疾病や障害を持つ人の不眠の実態と要因を考えることができる 休息・睡眠への具体的な援助・方法を考えることができる
関連科目	看護に生かす物理学 看護形態機能学3・4
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 「活動」を支援する技術 <ol style="list-style-type: none"> 運動の意義、効果 ADL ボディメカニクス 活動・運動における看護師の役割 運動機能のアセスメント 廃用症候群のリスクアセスメントと予防、ポジショニング(校内実習) 自動・他動運動、ROM訓練・筋力増強訓練 体位変換(校内実習) 移乗・移送(校内実習) 歩行の援助(校内実習) 「休息」を促す援助 <ol style="list-style-type: none"> 睡眠の生理 睡眠不足が心身に及ぼす影響 睡眠障害のある患者への援助 ケーススタディ:不眠の患者への援助(演習:ペーパーペイシエントを用いたグループワーク) 休息を促す援助(罨法)(校内実習)
授業時間外学習 (事前・事後)	校内実習前:校内実習内容の予習 校内実習後:校内実習内容のレポート・技術内容の反復練習
評価方法	筆記試験+課題レポート(100点満点)
教科書	基礎看護学② 基礎看護技術 I (メディカルフレンド社) 基礎看護学③ 基礎看護技術 II (メディカルフレンド社)
参考文献	看護がみえるvol.1基礎看護技術 (MEDIC MEDIA)
講師のコメント	活動では、校内実習を通じ運動機能の低下した患者に対する援助方法の習得を目指します。安全・安楽に行えるよう反復練習を行い技術修得していきましょう。睡眠は事例の患者に対する睡眠の援助を考え発表してもらいます。睡眠への援助はたくさんあります。皆さんの自由な発想を楽しみにしています。

区分	専門分野
授業科目	基礎看護技術5
回数(単位)	15回(テスト含む) (1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 呼吸を助ける援助方法を理解し、酸素吸入、吸引を実施することができる 包帯法の目的・方法・留意点を理解し、基本的な巻き方を実施することができる 感染予防に必要な知識を習得することができる 無菌操作を行うことができる 診察のプロセスを理解する 診療における看護の役割を理解する 洗浄(胃・膀胱)時の看護師の役割を理解する 検査の目的および看護の役割を理解し、方法(静脈血採血)を身につける
関連科目	微生物学 看護形態機能学3
学習内容	<p>1. 呼吸を整える技術 1)効果的な呼吸方法(安楽な呼吸の体位・安楽な呼吸方法)(校内実習:体位ドレナージ) 2)排痰を促す方法(校内実習:一時的吸引(口腔内・鼻腔内) 3)吸入の目的・方法・留意点(校内実習:ネブライザー吸入) 4)酸素吸入の目的・方法・留意点(校内実習:酸素吸入・酸素ボンベの取り扱い)</p> <p>2. 皮膚・創傷を守る技術 感染予防 1)感染とは 2)感染予防の技術 3)感染予防対策の基本 4)感染における看護師の責務と役割</p> <p>創傷管理 1)創傷管理とは 2)創傷の観察 3)創傷処置 包帯法の目的・方法・留意点(校内実習:包帯法)</p> <p>3. 検査・治療・処置の援助技術 1)診察 ①診察のプロセス②診療における看護の役割③診察時の援助 2)洗浄(胃・膀胱)の目的・方法と看護師の役割 3)検査 ①生体検査(画像検査・心電図) ②検体検査(尿・便・喀痰・穿刺・血液 校内実習:採血法)</p>
授業時間外学習 (事前・事後)	校内実習前:校内実習内容の予習 校内実習後:校内実習内容のレポート・反復練習
評価方法	課題+筆記試験(50点満点)
教科書	基礎看護学② 基礎看護技術 I (メディカルフレンド社) 基礎看護学③ 基礎看護技術 II (メディカルフレンド社)
参考文献	看護がみえるVol.1 基礎看護技術(MEDIC MEDIA) 看護がみえるvol.2 臨床看護技術(MEDIC MEDIA) 看護に生かす検査マニュアル (サイオ出版)
講師のコメント	診療の補助に必要な看護技術について、グループワークや校内実習を通して学びます。安全・安楽で、患者が安心できる援助のためにはどのような看護が必要か、根拠を踏まえながら一緒に学んでいきましょう。

区分	専門分野
授業科目	基礎看護技術6
回数(単位)	15回 (テスト含む) (1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 看護における教育支援の必要性と方法を理解する 看護過程の考え方を知り看護過程展開技術を理解する ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメントの視点を理解し、紙面患者の看護過程展開をする
関連科目	教育学 成人看護学概論 基礎看護技術1
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 看護を展開する技術程 <ol style="list-style-type: none"> 看護過程とは 看護過程の基本的構成要素 ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメントの視点 紙面患者の看護過程展開(演習:事例学習 グループディスカッション) 健康を支援する技術 <ol style="list-style-type: none"> 健康支援の対象 健康支援の場 健康支援の進め方(演習:ロールプレイ)
授業時間外学習 (事前・事後)	学習内容2は、毎回、授業時間外で課題に取り組みます。
評価方法	ペーパーテスト 演習課題
教科書	基礎看護学② 基礎看護技術 I (メディカルフレンド社) ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく 実践看護アセスメント(ヌーベルヒロカワ)
参考文献	看護過程展開関連各種 雑誌(疾患別看護過程が掲載されているもの)
講師のコメント	各自で事前課題に取り組み、授業では意見交換をし個々の疑問・学びを共有しながら皆で解決し理解を深め力をつけていきます。また、看護過程展開技術力の習得に向け、自己課題をその都度明確にして授業に臨んで下さい。雑誌などから他の事例の看護過程の一連を読み解いておくことをお勧めします。紙面患者(事例)に関する病態や看護などの基礎知識は、あらかじめ学習しておいて下さい。

区分	専門分野
授業科目	基礎看護技術7
回数(単位)	7.5回(テスト含む) (1単位15時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	「命をすくための技術」「最期に寄り添う援助技術」を身に着けることができる 1. 救急法について知り、救急蘇生法(一次的救命処置)を習得する 2. 臨終前後の患者および家族の看護を理解する 3. 終末期にある患者とその家族の現状を知る 4. 自身の生や死に対する価値観や死生観とは何かを考え、それを述べることができる
関連科目	看護形態機能学1 医療安全2
学習内容	命を救うための技術 1. 救命救急処置技術 1)救急医療と救急看護 2)救急医療体制 3)一次救命処置(BLS):校内演習 4)窒息の解除:校内演習 2. 最期に寄り添う援助技術 1)終末期医療の歴史と近年の動向:エンド・オブ・ライフ・ケア 2)生きる意味、死ぬ意味:死生観 3)臨終時の看護 4)終末期(エンド・オブ・ライフ)にある患者・家族 5)尊厳死あるいは延命の中止 6)脳死・臓器移植／安楽死
授業時間外学習(事前・事後)	事後:課題レポートがあります。
評価方法	筆記試験・課題レポート あわせて 100点満点
教科書	基礎看護学② 基礎看護技術 I (メヂカルフレンド社) 基礎看護学③ 基礎看護技術 II (メヂカルフレンド社)
参考文献	看護がみえるVol.1 基礎看護技術(MEDIC MEDIA) 看護がみえるvol.2 臨床看護技術(MEDIC MEDIA)
講師のコメント	終末期の看護では今の自分の死生観を整理するため、手記や文献を読んで広く考えを持てるようにしておきましょう

区分	専門分野
授業科目	基礎看護技術8
回数(単位)	22.5回(テスト含む) (1単位45時間)
開講年次	1年次 前期～後期
学習目標	<p>1. 基礎看護技術で学んだ知識と技能を行動化し、基本的な援助技術を習得する</p> <p>2. 看護者と患者役の双方を体験することにより援助技術の理解を深め看護に必要な態度を習得する</p>
関連科目	基礎看護技術1・2・3・4・5
学習内容	<p>事例設定による校内実習及び評価 【校内実習】</p> <p>①臥床患者のリネン交換(体位変換含む) ②バイタルサイン測定(体温・脈拍・呼吸・血圧) ③臥床患者の洗髪 ④臥床患者の全身清拭・寝衣交換 ⑤一時的導尿 ⑥浣腸</p> <p>◆無菌操作・滅菌手袋・ガウンテクニック (校内実習) ◆コミュニケーション (事例をもとに検温場面の実践 校内実習)</p>
授業時間外学習 (事前・事後)	技術テストに向けての自己練習
評価方法	①～⑥の項目について技術テスト(100点満点)
教科書	基礎看護学② 基礎看護技術 I (メヂカルフレンド社) 基礎看護学③ 基礎看護技術 II (メヂカルフレンド社)
参考文献	看護がみえるVol.1 基礎看護技術(MEDIC MEDIA) 看護がみえるVol.2 臨床看護技術(MEDIC MEDIA)
講師のコメント	技術テストが主となる科目です。十分に自己練習を重ねた上で技術テストを受けられるようにして下さい。

区分	専門分野
授業科目	地域・在宅看護基礎論
回数(単位)	7.5回 (1単位15時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	<p>1. 人々の多様な暮らしぶりを知り、人々が「暮らす」とはどういうことかを考えることができる。</p> <p>2. 地域特性を知り、生活環境が健康に与える影響を理解する。</p> <p>3. 地域で暮らす人々がどのように支え合って生活しているのかを考えることができる。</p>
関連科目	社会学 母性看護学概論 小児看護学概論 成人看護学概論 老年看護学概論 地域・在宅看護方法論1～4
学習内容	<p>1. 地域の人々の暮らし</p> <p>2. 地域で暮らす人々と地域とのかかわり</p> <p>3. 地域の生活環境が健康に与える影響</p> <p>4. 支え合って生きるとは</p> <p>5. その人らしい「暮らし」とは</p> <p>1～5は演習を主とする (フィールドワーク前後のグループディスカッション、グループワーク)</p>
授業時間外学習 (事前・事後)	フィールドワーク(自己の居住地(地域)を探索し、地域の人々の様子を観察したりインタビューをする。人が生活すること、人が暮らすことに触れながら、「その人らしく生きるとは」を探求する。また、互助の視点から自己にできることを考える。
評価方法	レポート(100点)
教科書	地域・在宅看護論1 (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	フィールドワークではチャンスを逃さずに積極的に地域の人々へのインタビューをしましょう。この体験は、礼儀をわきまえること、言葉遣い、他者とのコミュニケーション方法を意識しながら、勇気をもって地域に繰り出してください。人が「暮らす」ことに触れ、「その人らしく生きる」こととはどういうことか一緒に考えていきましょう。

区分	専門分野
授業科目	成人看護学概論
時間(単位)	15回(テスト含む) (1単位30時間)
開講年次	1年次 前期 ~ 後期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期の特徴について理解する 2. 成人期にある人の生活習慣にかかる健康障害とその予防について理解する 3. 成人期にある人の職業・労働にかかる健康障害とその予防について理解する 4. 成人期にある人を看護するための基本的な考え方を理解する 5. 各病期(急性期・回復期・慢性期・終末期)における対象の特徴と看護を理解する
関連科目	基礎看護学概論 公衆衛生学
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期の身体的・精神的・社会的特徴 (事例検討) 2. 成人期の生活習慣における健康問題と予防(グループディスカッション) <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康を阻害する生活背景と健康障害(身近な成人へのインタビュー) 2) 健康を促進する生活習慣(身近な成人へのインタビュー) 3. 職業生活における健康問題と予防(事例検討) 4. 成人保健の動向(事例検討) <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健・医療・福祉政策と課題 2) 成人保健指導 5. 成人に有用な看護理論 (グループワーク) 6. 各病期(急性期・回復期・慢性期・終末期)の看護(ジグソー法) <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の身体的・精神的・社会的特徴 2) 看護の方向性・ポイント
授業時間外学習 (事前・事後)	身近な成人期にある人の健康問題について問題抽出と解決策についてまとめる。 成人の各病期に活用できる中範囲理論についてまとめる。
評価方法	筆記試験(70点) 課題(30点)
教科書	成人看護学 成人看護学概論(南江堂)
参考文献	
講師のコメント	成人期にある人の特徴と看護に必要な考え方を学びます。成人期の人々を取り巻く環境や置かれる状況を理解するために、日々の中で社会問題に目を向けたり、家族はじめ身近な人々の生活習慣を注視したりその背景を想像し、対象の暮らしをイメージしながら学習して下さい。

区分	専門分野
授業科目	成人看護学方法論1
時間数	8回 (3講師でテスト1回含む) 3講師で1単位30時間
開講年次	1年次後期
学習目標	1. 循環機能障害をもつ成人の特徴と看護の方法を理解する
関連科目	病態生理学 疾病論3
学習内容	1. 循環機能障害をもつ成人の看護 1) 循環機能障害と日常生活 2) 循環機能障害の把握と看護 呼吸困難、胸痛、動悸、ショック 3) 循環機能障害の検査治療に伴う看護 心臓カテーテル検査をうける対象の看護、開心術後の看護 4) 循環機能障害をもつ対象の看護 急性の経過をたどる対象の看護(心筋梗塞) 慢性の経過をたどる対象の看護(心不全)
授業時間外学習 (事前・事後)	関連科目の既習内容について、事前に復習をして臨む
評価方法	筆記試験(50点)
教科書	機能障害からみた成人看護学① 呼吸機能障害/循環機能障害(メディカルフレンド社)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門分野
授業科目	成人看護学方法論1
回数(単位)	7回 +3講師でテスト1回 (3講師で1単位30時間)
開講年次	1年次後期
学習目標	1. 呼吸機能障害をもつ成人の特徴と看護の方法を理解する
関連科目	病態生理学 疾病論1
学習内容	<p>1. 呼吸機能障害をもつ成人の看護</p> <p>1)呼吸機能障害と日常生活</p> <p>2)呼吸機能障害の把握と看護 呼吸困難、疼痛、倦怠感</p> <p>3)呼吸機能障害の検査治療に伴う看護 ドレナージを受ける対象の看護、人工呼吸装着の看護、麻薬使用時の看護 放射線療法をうける対象の看護</p> <p>4)呼吸機能障害をもつ対象の看護 急性の経過をたどる対象の看護(肺切除術) 終末の経過をたどる対象の看護(肺がん)</p> <p>2. 終末期にある患者の看護(緩和ケア)</p>
授業時間外学習 (事前・事後)	関連科目の既習内容について、事前に復習をして臨む。特に、呼吸のしくみについて復習しておきましょう。
評価方法	筆記試験(50点)
教科書	機能障害からみた成人看護学① 呼吸機能障害/循環機能障害(メディカルフレンド社) 系統看護学講座 成人看護学2 呼吸器(医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門分野
授業科目	老年看護学概論
回数(単位)	15回(テスト含む) (1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 老年期にある対象の特徴(身体的・精神的・社会的)について理解する 高齢社会の現状を知り、高齢者を支える医療・保健・福祉制度について理解する 老年看護を実践するための理論・考え方を知る
関連科目	社会学 社会福祉学 在宅看護概論
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 高齢者とはなにか <ol style="list-style-type: none"> 老年期とは 老化の本質 老年期の身体的・精神的・社会的特徴 (演習:高齢者模擬体験) 老化と老年病 高齢者の性 高齢者を取り巻く社会 高齢社会の保健医療福祉の動向 高齢者的人権と倫理問題 老年看護の基本 治療を受ける高齢者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 薬物療法を受ける患者への援助 検査を受ける患者への援助 手術を受ける患者への援助 入院生活への援助 退院に向けての援助 老年病と看護
授業時間外学習 (事前・事後)	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者理解のために①身近な高齢者へのアンケート実施②新聞・ニュースなどから現代の高齢者問題を取り上げレポートする 生活者の視点から老年期の身体的特徴をグループでまとめ発表するための学習活動
評価方法	筆記試験(70点満点) 課題(30点満点)
教科書	ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害(メディカ出版) 国民衛生の動向(厚生労働統計協会)
参考文献	
講師のコメント	高齢社会において高齢者を理解することは重要です。老年期を体験していない皆さんが高い者を理解することは難しいことですが、身近な人や高齢者模擬体験、文献学習などを通して、老いについて一緒に学びましょう。高齢者のもつ力に着目して「その人らしい生の完成」「QOLを目指した看護」について考えましょう。

区分	専門分野
授業科目	精神看護学概論 1
回数(単位)	7.5回(テストを含む) (1単位15時間)
開講年次	1年次 後期
科目目標	人間関係を通して自己の理解、精神の成り立ち、看護のあり方を考える。
関連科目	形態機能学1 心理学 社会学
教育内容	<p>1. 精神看護学で学ぶこと</p> <p>1)心を病むことと精神障がい</p> <p>2)精神的健康の保持としての精神保健</p> <p>2. 精神のとらえ方</p> <p>1)精神病を理解するための脳の知識</p> <p>2)認知機能と精神基盤</p> <p>3)精神病の理解</p> <p>4)心理学から心を捉える</p> <p>3. 家族と精神の健康</p> <p>1)家族とは</p> <p>2)夫婦関係と精神</p> <p>3)親子関係と心の成長</p> <p>4. 精神看護の理念</p> <p>1)精神保健福祉の理念と看護の責務</p> <p>2)精神保健医療の変遷と現在の課題</p> <p>3)精神保健と権利擁護</p>
授業時間外学習 (事前・事後)	2では脳の機能と働きを、3では社会学の家族を予習してきてください。
評価方法	筆記試験(100点満点)
教科書	精神看護学① 精神看護の基礎 (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	形態機能学ではつながらなかった知識をグループワークを通してつなげる作業があります。

区分	専門分野
授業科目	医療安全1
回数(単位)	7.5回(テスト含む) (1単位15時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	<p>1. 医療事故のメカニズムを知る 2. 医療安全の観点から危険を認識する能力を持つことができる ①診療の補助の事故防止として与薬時の医療安全上のポイントが分かる ②療養上の世話の事故防止について考えることができる ③インシデント・アクシデントレポートの意義がわかる 3. 医療安全の視点からコミュニケーションのあり方について考えることができる 4. 組織的な安全管理体制への取り組みを知る</p>
関連科目	
学習内容	<p>1. 医療安全の経緯 2. 医療事故の定義 3. 人間の行動とヒューマンエラー 4. 看護事故の構造と事故防止の考え方 診療の補助の事故 療養上の世話の事故 【演習：インシデントレポートを書きグループワーク】 6. 医療安全とコミュニケーション 7. 組織的な安全体制への取り組み</p>
授業時間外学習 (事前・事後)	臨床実習場面からインシデントレポートを記載し、事例分析(要因分析)と具体的な医療事故の対策について考えてもらいます。その後、学生間で学びの共有をします。
評価方法	筆記試験(課題を含む)(100点満点)
教科書	看護の統合と実践2 医療安全 (医学書院) 医療安全ワークブック (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	看護形態機能学1
回数(単位)	6回 + 3講師でテスト1回 3講師で1単位30時間
開講年次	1年次 前期
学習目標	恒常性維持の調節機能である神経性調節として、脳と神経の構造と機能、伝達について理解できる。
関連科目	フィジカルアセスメント、成人看護学方法論4、疾病論4・6
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 恒常性維持のための調節機構 2. 自律神経(神経性調節) 3. 情報を得る <ol style="list-style-type: none"> 1) 見るということ 2) 触れる感じ 3) 匂う 4) 味わう 5) 傾きを知る 6) 痛み 7) 伝達と知覚 4. ホメオスタシスを守る活動 <ol style="list-style-type: none"> 1) 隨意運動を起こす神経 2) 隨意運動の指令を伝える伝導路 3) 精神活動 4) ストレスとホメオスタシス
授業時間外学習(事前・事後)	情報受容の仕組み、情報伝達と処理の仕組み、内部環境維持・調節の仕組みを予習すること
評価方法	筆記試験(40点満点)
教科書	人体の構造と機能① 解剖生理学(メジカルフレンド社) 看護 形態機能学(日本看護協会出版会) 看護につなげる 形態機能学(メジカルフレンド社) 生体のしくみ標準テキスト(医学映像教育センター)
参考文献	
	脳には、大きく二つの働きがあると言えます。一つは体を調節すること。もう一つは考えるということでしょうか。さて、あなたはどうやって思考していますか？何を基に行っていますか？一つ一つ、じっくりと解き明かしていきましょう！

区分	専門基礎分野
授業科目	看護形態機能学1
回数(単位)	4回 + 3講師でテスト1回 3講師で1単位30時間
開講年次	1年次 前期
学習目標	恒常性維持の調節機能である液性調節として、ホルモンの役割・種類とはたらきについて理解できる。
関連科目	フィジカルアセスメント、成人看護学方法論3、疾病論2・6
学習内容	<p>1. 恒常性のための調節機構 液性調節(ホルモン)</p> <p>1)ホルモンの作用機序</p> <p>2)ホルモン分泌の調節</p> <p>3)恒常性維持のためのホルモンのはたらき</p> <p>①体液量の調節</p> <p>②代謝速度の調節</p> <p>③蛋白合成の促進</p> <p>④血糖の調節</p> <p>⑤血中ナトリウム・血中カリウムの調節</p> <p>⑥血中カルシウムの調節</p> <p>2. ストレスと恒常性の維持</p>
授業時間外学習 (事前・事後)	内部環境維持・調節の仕組みを予習すること
評価方法	筆記試験(30点満点)
教科書	人体の構造と機能① 解剖生理学(メジカルフレンド社) 看護 形態機能学(日本看護協会出版会) 看護につなげる 形態機能学(メジカルフレンド社) 生体のしくみ標準テキスト(医学映像教育センター)
参考文献	
	恒常性の維持のための、液性調節について学びましょう。ホルモンを通して人体の不思議や素晴らしさを理解しましょう。また身近にあるストレスに着目し、ストレスと身体症状の関連を、グループワークを通して一緒に考えていきましょう。

区分	専門基礎分野
授業科目	看護形態機能学1
回数(単位)	5回(3講師でテスト1回 含む) 3講師で1単位30時間
開講年次	1年次 前期
学習目標	<p>1. 生きているということと日常生活行動との関連を理解できる。</p> <p>2. 解剖生理学的用語を理解できる。</p> <p>3. 細胞の構造とはたらきを理解できる。</p> <p>4. 内部環境と外部環境とは何かを説明できる。</p> <p>5. 生体の防御機構であるからだの仕組み(非特異的防御機構と特異的防御機構)について理解する。</p>
関連科目	看護形態機能学2、微生物学、疾病論3
学習内容	<p>1. 看護形態機能学を学ぶ意義</p> <p>2. からだの基礎知識</p> <p>3. 細胞・組織・器官</p> <p>4. 個体と外界から区別するもの—皮膚</p> <p>5. 生体の防御機構と免疫</p> <p>6. ケーススタディ</p>
授業時間外学習 (事前・事後)	看護形態機能学第1章を読んで授業へ臨むこと
評価方法	筆記試験(30点満点)
教科書	<p>看護形態機能学(日本看護協会出版会)</p> <p>人体の構造と機能① 解剖生理学(メジカルフレンド社)</p> <p>看護につなげる 形態機能学(メジカルフレンド社)</p> <p>生体のしくみ標準テキスト(医学映像教育センター)</p>
参考文献	はたらく細胞
講師のコメント	高校で生物を履修していない人は、講義前にあらかじめテキストの該当する範囲を読んでおくと理解しやすいです。

区分	専門基礎分野
授業科目	看護形態機能学2
回数(単位)	15回(テスト1回を含む) (1単位30時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内部環境の恒常性を維持する要素を理解できる 2. 体液の分類とその構成、体液移動のメカニズムを理解できる 3. 血漿のPH維持の重要性と恒常性維持のメカニズムを理解できる 4. 動脈血ガス分圧の正常値を理解できる 5. 血糖の恒常性維持のメカニズムを理解できる 6. 体温調節のメカニズムを理解できる
関連科目	基礎看護技術1 成人看護学方法論1、3 疾病論3
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体液の分類と量 <ol style="list-style-type: none"> 1) 体液の区分と移動 2) 体液の移動のメカニズム 3) 水分出納 2. 体液の電解質 3. 血漿のPH <ol style="list-style-type: none"> 1) 恒常性維持のための酸塩基平衡 2) 腎臓・肺による恒常性維持 4. 動脈血の酸素分圧 5. 血漿の糖分 6. 体温 7. 流通の媒体-血液 8. 流通路-血管・リンパ管 9. 流通の原動力 10. ケーススタディ 脱水、出血、血圧の変動 【演習:ジグソー法によるグループワーク】
授業時間外学習 (事前・事後)	看護形態機能学と解剖生理学の教科書の該当するページを読み込んで授業に臨むこと
評価方法	筆記試験、課題 あわせて 100点満点
教科書	看護形態機能学(日本看護協会出版会) 人体の構造と機能① 解剖生理学(メジカルフレンド社) 生体のしくみ標準テキスト(医学映像教育センター)
参考文献	
講師のコメント	高校までの生物学や化学の学びが土台になります。 流通路、流通の原動力の単元では課題を出します。 学習困難を感じたら自己学習と講義時間外をうまく活用し講師や友人へ自らきく姿勢が大事です。一緒に学習し学ぶ楽しさを感じましょう。

区分	専門基礎分野
授業科目	看護形態機能学3
回数(単位)	7回 +3講師でテスト1回 (3講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	<p>1. 動くということを通して、骨、関節、筋肉の構造と機能を理解できる。</p> <p>2. 聞く、話すということを通して、言語的コミュニケーションに必要な器官の構造と機能を理解できる</p> <p>3. 風呂に入ることに関するからだのしくみを理解できる</p>
関連科目	看護形態機能学1・2 疾病論4 基礎看護技術1 成人看護学方法論4
学習内容	<p>『動く』</p> <p>1. 骨・骨格と5つの機能</p> <p>2. 神経から筋への指令と筋の収縮</p> <p>3. 意図的な運動～随意運動～</p> <p>4. 意図的でない運動～中脳反射～</p> <p>5. 日常生活での基本的動き</p> <p>・姿勢</p> <p>・立位の保持</p> <p>・関節可動域 歩く、つまむ、表情</p> <p>6. ケーススタディ 骨折 関節可動域(演習:グループワーク)</p> <p>『話す・聞く』</p> <p>1. 声を出す 2. 聞く 3. 聞いて話す</p> <p>『風呂に入る』</p> <p>1. 堀を落とす 2. 皮膚と付属物</p> <p>3. 皮膚・粘膜の血管と神経 4. 温まる</p>
授業時間外学習(事前・事後)	ケーススタディ:「動く」「話す・聞く」「風呂に入る」に関連する事例課題
評価方法	筆記試験(50点満点)
教科書	<p>人体の構造と機能① 解剖生理学 (メジカルフレンド社)</p> <p>看護 形態機能学(日本看護協会出版会)</p> <p>看護につなげる 形態機能学 (メジカルフレンド社)</p> <p>生体のしくみ標準テキスト(医学映像教育センター)</p>
参考文献	
講師のコメント	からだ全体を移動させること、あるいはからだの一部を動かすことができなくなったら、私たちの生活はどうなるでしょう。食事をとることやトイレに行くことなど、すべての生活に影響します。また、人が生活する上で欠かせないコミュニケーションは、話し手と聞き手がいて成り立つものです。このように、皆さんのが生活している中で身近な「動くこと」・「会話すること」・「お風呂に入ること」について、からだの機能と仕組みを学び理解する科目です。学習していく内容を、自分のからだに置き換ながら、興味をもって学んでいきましょう。

区分	専門基礎分野
授業科目	看護形態機能学3
回数(単位)	6回(3講師でテスト1回を含む) 3講師で1単位30時間
開講年次	1年次 前期
学習目標	1. 生命維持に直結する「息をする」という日常生活行動に関するからだの仕組みを理解する
関連科目	看護形態機能学1、2 基礎看護技術1 フィジカルアセスメント 成人看護学方法論1 疾病論1
学習内容	1. 息をするとは 2. 息をするための器官の名称と構造 3. 息をするための器官の機能 4. 息をするための運動 5. 息をする運動の神経支配 6. ガス交換 7. ケーススタディ 【演習：肺気腫事例 グループワーク】
授業時間外学習(事前・事後)	該当する看護形態機能学と解剖生理学の教科書を講義前・後に読んでおくこと
評価方法	筆記試験(35点満点)
教科書	人体の構造と機能① 解剖生理学(メジカルフレンド社) 看護形態機能学(日本看護協会出版会) 看護につなげる 形態機能学(メジカルフレンド社) 生体のしくみ標準テキスト(医学映像教育センター)
参考文献	
講師のコメント	「息をする」ことは、私達の日常生活の中でも最も意識されずに行われる動作です。息は無意識のうちに調節され、眠っている間も一定のリズムで行われていますが、自分の意思で調節することが可能です。生命維持に直結するからだの機能と仕組みを演習を通して一緒に学んでいきましょう。

区分	専門基礎分野
授業科目	看護形態機能学3
回数(単位)	2回+3講師でテスト1回(3講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	日常生活行動である「子どもを生む」ために必要な器官とその働きを学ぶ
関連科目	疾病論5 母性看護学方法論1
学習内容	<p>1. 「子どもを生む」ための体のしくみ</p> <p>1) 男性生殖器 2) 女性生殖器</p> <p>2. 男女の違いはどのようにできるのか</p> <p>1) 遺伝による性差の決定 2) ホルモンの働き</p> <p>3. 「子どもを生む」ためのしくみ</p> <p>1) 排卵 2) 射精 3) 性交・受精・妊娠</p> <p>4. 基礎体温とは</p> <p>1) 月経 2) 性周期とホルモン</p>
授業時間外学習(事前・事後)	看護形態機能学と解剖生理学の教科書の該当するページを読み込んで授業に臨むこと
評価方法	筆記試験(15点満点)
教科書	看護形態機能学(日本看護協会出版会) 人体の構造と機能① 解剖生理学(メディカルフレンド社) 生体のしくみ標準テキスト(医学映像教育センター)
参考文献	
講師のコメント	疾病論5、母性看護学と関連が深い科目です。2回しか授業がありませんので、予習・復習が大切になります

区分	専門基礎分野
授業科目	看護形態機能学4
回数(単位)	6回+2講師でテスト1回 (2講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	<p>1. 日常生活行動「トイレに行く」に関するからだのしくみを理解できる。</p> <p>2. 日常生活行動「眠る」に関するからだのしくみを理解できる。</p>
関連科目	基礎看護技術2, 4
学習内容	<p>1. 日常生活行動「トイレに行く」</p> <p>1) 排尿 (1) 尿意を感じる、排尿 (2) 尿の生成と体液量の調節</p> <p>2) 排便 (3) ケーススタディ(便秘・尿失禁) (演習:ジグソー法によるグループワーク) (4) 自分の排泄物を測定・観察し生活との関連を推察 (演習:ジグソー法によるグループワーク)</p> <p>2. 日常生活行動「眠る」</p> <p>1) 覚醒と睡眠 2) 人はなぜ眠くなるのか 3) 眠り 4) ケーススタディ</p>
授業時間外学習 (事前・事後)	毎回の講義前・後:必ず講義内容の予習および復習
評価方法	筆記試験(40点満点)
教科書	看護形態機能学(日本看護協会出版会) 人体の構造と機能① 解剖生理学(メジカルフレンド社) 生体のしくみ標準テキスト(医学映像教育センター)
参考文献	
講師のコメント	排泄物(便・尿)は、その人の生活状況が推測できます。自身の排泄状況の観察から体のしくみを理解しよう。

区分	専門基礎分野
授業科目	看護形態機能学4
回数(単位)	9回(2講師でテスト1回を含む)2講師で1単位30時間
開講年次	1年次 前期
学習目標	1.「食べる」に関するからだのしくみを理解できる
関連科目	看護形態機能学1・2、基礎看護技術2
学習内容	<p>1. 日常生活行動「食べる」</p> <p>1) 食欲</p> <p>2) 食行動</p> <p>3) 咀嚼し味わう</p> <p>4) 飲み込む(嚥下)</p> <p>5) 消化と吸收</p> <p>6) ケーススタディ 【演習:ジグソー法によるグループワーク】 脢炎、胆石症、経管栄養法など</p> <p>7) 血糖値測定 【演習:ジグソー法によるグループワーク】 消化器系の白地図【演習:模型を用いたグループワーク】</p>
授業時間外学習 (事前・事後)	該当範囲の教科書を読んで講義内容の予習・復習 ケーススタディ:「食べる」の事例課題
評価方法	筆記試験+課題(60点満点)
教科書	看護形態機能学(日本看護協会出版会) 人体の構造と機能① 解剖生理学(メディカルフレンド社) 生体のしくみ標準テキスト(医学映像教育センター)
参考文献	
講師のコメント	日常生活における『食べる』という行動の体のしくみについて、模型や演習を通して学んでいきます。 基礎看護技術2にも関連していくため、しっかりと予習・復習をして臨みましょう。

区分	専門基礎分野
授業科目	生化学
回数(単位)	15回(テスト含む) (1単位30時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	生体を構成している物質及び物質代謝・エネルギー代謝の仕組みを理解する。
関連科目	
学習内容	<p>【生体を構成する物質とその代謝について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生体の化学の基礎知識 ・細胞の構造と機能 ・糖質について ・脂質について ・タンパク質について ・栄養素の消化と吸收 ・三大栄養素の代謝について <p>2018年教科書の改訂前の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体内的水について ・血液について ・尿について <p>* 教科書の改定や進行状況により一部変更あり。</p>
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(100点満点)
教科書	人体の構造と機能 [2] 生化学 (医学書院)
参考文献	他の生化学の教科書も参考してください。
講師のコメント	からだが何でできているのか、からだの中でどのような代謝が起こっているのか、看護・医療を学ぶ上で最も基本となる科目です。他の科目を理解する上でも、非常に大切な科目ですので、しっかりと理解して、身につけてもらいたいと思います。

区分	専門基礎分野
授業科目	病態生理学
回数(単位)	7回+2講師でテスト1回 (2講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	病因と病変の特徴を知る
関連科目	
学習内容	<p>1. 疾病を引き起こす内的、外的誘引</p> <p>2. 細胞や組織に生じる変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退行性病変(萎縮、変性、壊死) ・過形成 ・再生と修復 ・循環障害(傍側循環、血栓、塞栓、DIC) ・炎症(化膿性炎症、肉芽腫性炎症) ・腫瘍(癌腫、肉腫、転移……ウィルヒヨウ、シュニツツラー、クルケンベルグ) <p>3. 異常状態に影響する個体の条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代謝異常(痛風、糖尿病) ・免疫反応とアレルギー(免疫病理学、抗原・抗体、アレルギー、 自己免疫、移植免疫) ・先天異常(遺伝、奇形) ・老化
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(50点満点)
教科書	疾病の成り立ち① 病態生理学 メディカ出版
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	病態生理学
回数(単位)	8回+2講師でテスト1回 (2講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	<p>1. 人体の構造と機能において正常から逸脱する場合のさまざまな症状・徵候のメカニズムを理解する。</p> <p>2. 主な症状・徵候のメカニズムと、観察、検査、治療を関連させることができる。</p>
関連科目	看護形態機能学 フィジカルアセスメント
学習内容	<p>1. 体液の異常が及ぼす生体反応のメカニズム・体液管理・輸液管理</p> <p>2. 症状の原因、起こりうる生体反応、観察点(検査データを含む)、治療</p> <p>1)腹水 2)浮腫 3)貧血 チアノーゼ 出血傾向 4)呼吸困難 胸水 5)ショック 6)意識障害 7)脱水 8)疼痛</p> <p>3. 人工呼吸器が生体に及ぼす影響</p>
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(50点満点)
教科書	疾病の成り立ち① 病態生理学 メディカ出版
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	疾病論1
回数(単位)	7.5回+テスト1回 (1単位15時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	呼吸器疾患の病態生理、治療検査について述べることができる
関連科目	看護形態機能学3 成人看護学方法論1 フィジカルアセスメント
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 肺がんの病態生理、検査・治療 気管支鏡検査 胸腔ドレナージ 手術療法(肺切除術) 薬物療法(塩酸モルヒネ) 2. COPDの病態生理、検査・治療 肺機能検査 スパイログラム 動脈血ガス分析 3. 気管支喘息の病態生理、検査・治療 薬物療法(気管支拡張剤 ステロイド) 4. 肺炎・間質性肺炎の病態生理、検査・治療 5. 肺結核の病態生理、検査・治療 6. インフルエンザの病態生理、検査・治療 7. 気胸の病態生理、検査・治療
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(100点満点)
教科書	成人看護学2(呼吸器) (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	疾病論2
回数(単位)	7回+4講師でテスト1回 (4講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	内分泌系疾患の病態生理、治療、検査について述べることができる
関連科目	生化学 栄養学 看護形態機能学4
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 糖尿病の病態生理、検査・治療 ブドウ糖負荷試験 食事療法 運動療法 薬物療法 メタボリックシンドロームの病態生理、検査・治療 高脂血症、高血圧、肥満、動脈硬化 血糖 血中脂肪 血圧 体重 痛風の病態生理、検査・治療 甲状腺機能亢進症の病態生理、検査・治療 甲状腺機能摘出術 アイソトープ療法
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(50点満点)
教科書	成人看護学6(内分泌・代謝)(医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	疾病論2
回数(単位)	4回+4講師でテスト1回 (4講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	消化器系疾患の病態生理、治療、検査について述べることができる
関連科目	看護形態機能学4 成人看護学方法論2 フィジカルアセスメント
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 胃がんの病態生理、検査・治療 内視鏡検査 上部消化管造影 血液検査 手術療法(胃切除術) 2. 大腸がんの病態生理、検査・治療 イレウスとの関連 内視鏡検査 腫瘍マーカー 減圧療法(イレウスチューブ) 手術療法(直腸手術) 3. 肝硬変の病態生理、検査・治療 肝炎 肝がんとの関連 肝炎ウイルスマーカー 肝生検 インターフェロン療法 内視鏡硬化療法 肝動脈塞栓術・動注療法 経皮的エタノール注入療法 SB チューブ 4. 胃・十二指腸潰瘍の病態生理、治療・検査
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(25点満点)
教科書	成人看護学5(消化器) (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	疾病論2
回数(単位)	4回+4講師でテスト1回 (4講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	消化器系疾患の病態生理、治療、検査について述べることができる
関連科目	看護形態機能学4 成人看護学方法論2 フィジカルアセスメント
学習内容	<p>1. 胆石症の病態生理、治療・検査 排泄性胆囊造影法 ERCP 経皮経肝的胆道ドレナージ 腹腔鏡下手術</p> <p>2. 膵炎の病態生理、治療・検査</p> <p>3. 乳がんの病態生理、治療・検査</p> <p>4. 食道がんの病態生理、治療・検査 食道再建術</p>
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(25点満点)
教科書	成人看護学5(消化器) (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	疾病論3
回数(単位)	7回+4講師でテスト1回 (4講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	循環器系(心血管)疾患の病態生理、治療、検査について述べることができる
関連科目	看護形態機能学1 成人看護学方法論3
学習内容	<p>1. 心不全の病態生理、検査・治療 不整脈との関連 X線検査(CTR) 心電図 心エコー スワンガントカーテル ペースメーカー</p> <p>2. 心筋梗塞の病態生理、検査・治療 心タンポナーデ 不整脈との関連 血清酵素 心電図 負荷心電図 心エコー 心臓カテーテル法 PTCR PTCA スワンガントカーテル法 中心静脈圧 手術療法(冠動脈バイパス術) 人工心肺 IABP 除細動器 薬物療法(降圧剤 強心剤 血管拡張剤 抗不整脈薬 抗血栓薬)</p> <p>3. 狹心症の病態生理、検査・治療(薬物療法)</p> <p>4. 僧房弁閉鎖不全症・狭窄症の病態生理、検査・治療</p> <p>5. 大動脈弁閉鎖不全症・狭窄症の病態生理、検査・治療</p> <p>6. 大動脈瘤の病態生理、検査・治療</p> <p>7. 閉塞性動脈硬化症の病態生理、治療・検査</p>
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(50点満点)
教科書	成人看護学3(循環器) (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	疾病論3
回数(単位)	4回(神谷先生野村先生あわせて)+4講師でテスト1回 (4講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	循環器系(腎)疾患の病態生理、治療、検査について述べることができる
関連科目	看護形態機能学1. 4 成人看護学方法論4
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性腎不全の病態生理、検査・治療 尿検査 腎生検 腎機能検査(糸球体濾過 腎血流量 PSP試験) 画像診断(腎盂造影 シンチ) 血液透析(シャント) 腹膜透析 2. 急性腎不全の病態生理、検査・治療 3. 急性糸球体腎炎の病態生理、検査・治療 4. 慢性糸球体腎炎の病態生理、検査・治療 5. 糖尿病性腎炎の病態生理、検査・治療 6. 腎硬化症の病態生理、検査・治療
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(25点満点)
教科書	成人看護学8(腎) (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	疾病論3
回数(単位)	4回+4講師でテスト1回 (4講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	1. 血液疾患の病態生理、治療検査について述べることができる
関連科目	看護形態機能学1 成人看護学方法論2
学習内容	1. 白血病の病態生理、検査・治療 2. リンパ腫の病態生理、検査・治療 3. 鉄欠乏性貧血の病態生理、検査・治療 4. 出血傾向のある疾患の病態生理、検査・治療
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(25点満点)
教科書	成人看護学4(血液・造血器) (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	疾病論4
回数(単位)	8回+4講師でテスト1回 (4講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	運動器系疾患の病態生理、治療、検査について述べることができる
関連科目	看護形態機能学3 成人看護学方法論4
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脊椎・脊髄損傷の病態生理、検査治療 神経学的検査(運動・知覚・反射)脊髄造影 筋電図 神経伝達速度 2. 変形性関節症の病態生理、検査治療 関節鏡 THA TKA 3. 骨折の総論、病態生理(上肢 大腿骨頸部) 骨折の治療 ギプス療法 牽引療法(介達牽引 直達牽引) 4. 脱臼・捻挫の病態生理、検査治療 5. 末梢神経の損傷の病態生理、検査治療 6. 椎間板ヘルニアの病態生理、検査治療 7. 慢性関節リウマチの病態生理、検査治療 8. 運動器系疾患の治療 注射療法(関節内注射 神経ブロック) 骨・関節の手術 装具
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(50点満点)
教科書	成人看護学10(運動器)(医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	疾病論4
回数(単位)	4回+4講師でテスト1回 (4講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	脳神経系疾患の病態生理、治療、検査について述べることができる
関連科目	看護形態機能学2 成人看護学方法論4 フィジカルアセスメント
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳梗塞の病態生理、検査・治療 CT MRI 神経学的所見の見方 薬物療法 2. 筋萎縮性側索硬化症の病態生理、検査・治療 重症筋無力症、進行性筋無力症との相違 筋電図検査 末梢神経伝導検査 3. 認知症の基礎知識
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(30点満点)
教科書	成人看護学7(脳神経)(医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	疾病論4
回数(単位)	3回+4講師でテスト1回 (3講師で1単位30時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	脳神経系疾患の病態生理、治療、検査について述べることができる
関連科目	看護形態機能学2 成人看護学方法論4 フィジカルアセスメント
学習内容	<p>1. 脳出血の病態生理、検査・治療 CT MRI 神経学的所見の見方 手術療法(開頭術 VPシャント) 脳室ドレナージ</p> <p>2. <も膜下出血の病態生理、検査・治療</p> <p>3. 硬膜外(下)血腫の病態生理、検査・治療</p>
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(20点満点)
教科書	成人看護学7(脳神経)(医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	微生物学
回数(単位)	7.5回 (テスト1回を含む) (1単位15時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	1. 病原微生物の特徴、病原微生物が生体に及ぼす影響と生体の反応、その予防を理解する。
関連科目	看護形態機能学2 基礎看護技術5
学習内容	<p>1. 微生物学の基礎</p> <p>1) 細菌の性質と主な病原微生物</p> <p>2) 真菌の性質と主な病原微生物</p> <p>3) 原虫の性質と主な病原微生物</p> <p>4) ウィルスの性質と主な病原微生物</p> <p>2. 感染とその防御</p> <p>1) 感染と発病</p> <p>2) 減菌と消毒</p> <p>3) 生体防御機構(免疫)</p> <p>4) 感染症の予防</p> <p>3. 演習</p> <p>1) 手指衛生実習(手洗い 消毒 減菌)</p> <p>2) 基礎の細菌検査の実際(MRSA VRE MDRP)</p>
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(100点満点)
教科書	疾病のなりたちと回復の促進④ 微生物学 (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	薬理学
回数(単位)	7.5回 (1単位15時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	薬物が生体の機能に及ぼす影響・治療的応用及び管理について理解する。
関連科目	基礎看護技術9
学習内容	<p>薬理学総論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物治療の概念 2. 薬物の作用(効果と有害作用)と影響要因 3. 薬物の適正な利用方法 安全な管理・使用 医薬品添付文書の読み方 処方箋と処方の実際 <p>薬理学概論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 抗感染症薬 2. 抗がん薬 3. 免疫治療薬 4. 抗アレルギー薬・抗炎症薬 5. 末梢神経作用薬 6. 中枢神経作用薬 7. 心臓・血管系に作用する薬物 8. 呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬物 9. 物質代謝に作用する薬物 10. 救急の際に使用される薬物 11. 生物学的製剤・薬物中毒とその処置
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	筆記試験(100点満点)
教科書	疾病のなりたちと回復の促進③ 薬理学 (医学書院)
参考文献	
講師のコメント	

区分	専門基礎分野
授業科目	臨床判断基礎論
回数(単位)	7.5回(テストを含む) (1単位15時間)
開講年次	1年次 後期
学習目標	1. 患者の「からだ(症状・病態)」について、看護形態機能学の視点から説明できる 2. 看護形態機能学の知識を活用し、各機能障害から出現する症状や薬剤の効果など関連付けて考えることができる
関連科目	看護形態機能学 病態生理学 薬理学 疾病論 基礎看護技術
学習内容	<p>◆以下の疾患・症状がある患者の事例を通し、症状や薬剤の効果などについて看護形態機能学の知識を関連させ、個人ワークを基にグループで学びを共有する。 【演習:グループワーク】</p> <p>事例) -肺炎による呼吸困難がある患者 -下痢による脱水の患者 -脳梗塞による麻痺のある患者 -肝硬変による肝性脳症の患者 など…</p> <p>◆臨床判断モデルとは</p> <p>◆臨床判断気づくトレーニング(DVD)</p>
授業時間外学習 (事前・事後)	看護形態機能学を基にした事例課題があります。
評価方法	100点満点(レポート提出にて評価)
教科書	解剖生理学 看護形態機能学 看護につなげる形態機能学 病態生理学 薬理学
参考文献	
講師のコメント	<ul style="list-style-type: none"> 事例をもとに、症状のメカニズムと使用されている薬剤との関連を、既習科目である看護形態機能学、病態生理学、薬理学などを活用し理解を深めます。この学びは、臨床判断における基礎的知識となるものです。 学習していく過程においては、既習科目の活用の仕方や学習方法も学んで行きましょう。

区分	専門基礎分野
授業科目	公衆衛生学
回数(単位)	8回 + テスト1回 (1単位15時間)
開講年次	1年次 前期
学習目標	公衆衛生学は社会集団を対象とした人々の健康な生活の保全を目的とし、個人または集団で疾病が発生する条件や人々の健康保持、増進のための実際的な活動を考える学問です。本講義では、個人や社会集団の健康に影響する様々な問題に関する授業を展開し、それらについて自らの力で考え得ることを目標とします。
関連科目	在宅看護概論
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の概念(公衆衛生の意義、歴史、健康日本21、健康増進法等) 2. 環境保健(地球環境汚染、環境保全、公害、廃棄物等) 3. 国民栄養と食品保健(食事摂取基準、国民健康・栄養調査、食中毒、食品衛生法等) 4. 人口統計(人口静態・動態統計、疾病統計) 5. 疾病の疫学と予防(予防医学、疫学、感染性、非感染性疾病の疫学と予防) 6. 公衆衛生活動の実際(産業保健、学校保健、老人保健、国際保健等) 7. 保健医療論(保健・医療・福祉の資源、地域保健、社会保障制度等)
授業時間外学習 (事前・事後)	
評価方法	定期試験を実施する。評価は定期試験の成績、授業の出席状況、受講態度を総合的に判断して決定する。(100点満点)
教科書	健康支援と社会保障制度② 公衆衛生学(メヂカルフレンド社)、プリント配布
参考文献	「国民衛生の動向」(厚生統計協会)
講師のコメント	授業は主にスライドにより行う。 講義終了後10分程度教室にて質問を受け付ける。 講義で利用した配布資料等について30分程度復習し、要点をノートにまとめ、理解すること。

授業科目	特別講義(安城更生病院・看護部概要説明)
時間(単位)	2時間
開講年次	1年次 5月
ねらい	基礎看護学実習1-①を6月中旬に予定をしています。この実習は看護学生として初めて現場に臨む実習です。それに向け5月以降複数回、実習オリエンテーションを実施します。初回は、安城更生病院 副看護部長より実習場所である安城更生病院そして看護部の概要をお話ししていただき、実習に向け、病院・看護部について理解し、看護学生としての心構えがもてるような機会としたいと考えています。
事後課題	レポート提出

授業科目	特別講義(厚生連球技大会参加・応援)
担当講師	
時間(単位)	半日程度
開講年次	1年次 11月
ねらい	愛知県厚生連では、8つの病院及び3つの学校の親睦と交流を目的にバレーボール・野球の大会を毎年11月頃開催している。更生看護専門学校は、バレーボール部が施設を代表し大会に参加する。 厚生連看護専門学校の学生は、在学期間を経て、8病院いずれかの病院で働く。入学して半年が経過した。球技大会に参加することを通して、愛知県厚生連にはどのような病院があるのか興味をもち病院を知り、愛知県厚生連に所属する学生であるという意識を高める機会としたい。
備考	

授業科目	特別講義(在宅療養者の生活と支えるシステム)
時間(単位)	2時間
開講年次	1年次 3月
ねらい	<p>在宅医療と障害福祉サービスを受けながら生活を送る障害者の生活と生活を支えるシステムについて理解を深める</p> <p>地域・在宅看護基礎論において、地域での多様な暮らしについて学んだ。2年生では、地域で暮らす人たちの健康と暮らしを支える看護の理解をするための講義が開始となる。地域で障害を抱えながら暮らす当事者の話を聞きながら、様々な対象について理解し、支えるシステムについて知る機会としたい。</p>
事後課題	レポート提出

授業科目	特別講義(DVIについて)
担当講師	愛知県福祉局より派遣
時間(単位)	2時間
開講年次	1年次 3月
ねらい	
事後課題	レポート提出

区分	専門分野
授業科目	基礎看護学実習1-①
単位(時間)	5時間/45時間 (基礎看護学実習1-②と合わせて1単位45時間)
開講年次	1年次 前期
目的	対象および対象を取りまく生活(療養)環境に関心を持ち、看護活動の実際を学ぶ
目標	<ol style="list-style-type: none"> 病棟の構造・設備を知り、望ましい環境を理解する 患者の生活を知り、看護師の役割を理解する 看護師として望ましい(必要な)態度を身につける
実習内容	<p>1)ルーブリック表や目的目標に基づいてビジョンゴールを設定する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリック表の言葉を解釈する ・ゴール達成に向けて戦略立て実習に取り組む ・体験したことと目標と照らし合わせ、学習の達成状況を明らかにする ・体験したことを文献と照らし合わせる <p>2)学習姿勢について振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンスの発言状況など実習姿勢について振り返る <p>3)看護学生として実習に臨む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ ・言葉使い ・提出物 ・時間管理 ・健康管理 <p>4)【病棟実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院患者の病床環境を見る(※臥床患者希望) ・見学した病床環境を文献と比較し、患者の視点から構造・設備の意味・意義を話し合う <p>5)患者の生活状況と援助の実際(清潔・排泄・食事・移動他)を見学する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院前と後の24時間の生活をイメージする ・中間カンファレンスを設けて午後からの実習の戦略を立てる <p>* 詳細については、実習要項参照</p>

区分	専門分野
授業科目	基礎看護学実習1-②
単位(時間)	40時間/45時間 (基礎看護学実習1-①と合わせて1単位45時間)
開講年次	1年次 後期
目的	対象および対象を取りまく生活(療養)環境に関心を持ち、看護活動の実際を学ぶ
目標	学内で学んだ技術を実践しながら対象の安全安楽を考慮した援助技術を実践できる
実習内容	<p>1)ビジョンゴールを意識して、自己の学習計画を立てる ・現状分析から自己課題を明らかにする ・自己課題からビジョンゴールを立案し、学習計画を立てる</p> <p>2)関心をもって相手と関わる ・相手の立場になって関わる ・文献を活用したり、他者との意見交換を行う</p> <p>3)病床環境を整える ・環境整備を実施する</p> <p>4)観察を行う ・バイタルサインを測定する ・相手の状態を観る</p> <p>5)コミュニケーションを図る</p> <p>6)清潔援助を中心とした日常生活援助を行う ・清潔、排泄、食事など</p> <p>7)カンファレンスやリフレクションを通して、自己の学びを深める</p> <p>* 詳細については、実習要項参照</p>